公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスまはる宜野湾伊佐				公表日	2025年5月14日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6名		・療育室、プレイルームと空間をカーテンで区切る等して工夫している。	・個室スペースを提供していく事で体調不良等の安静に出来る環境は今後検討が必要なので改善していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6名		・支援の中でも課題やプログラムをグループ分けして職員は必ず最低でも2人～3名配置したりと環境や児童の特性で配置しています	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切にされているか。	6名		・広いスペースを確保しながら、可視化した支援、掲示物、区分した療育スペースを作り適した環境設定を続けています。	改善点としては建物が古い事もあり劣化が見られるので今後は会社と相談しながら修復していく方向で進めています
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6名		・毎朝、清掃活動を行っています。 ・空間作りとして児童にも考えさせる事で支援の中でも取り入れながら行っています	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6名		・個室や事務室などを使用しながら落ち着いて過ごせる環境設定は行っています	スペースによっては職員の目が行き届かない空間も出てくるのでそこは改善していきます
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4名	2名	情報共有や目標設定など日々の業務内で行う環境は作られています。	PDCAサイクルで活用しているか？となるとそこは別となる為、今後は活用し業務効率になる様に取り入れていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5名	1名	日々保護者様との共有や相談等は行っています。保護者参加型のイベントも行っています	家庭へのアプローチや保護者会とした機会は多く作れていないため、今後は多く交流出来る場を提供していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6名		月に1～2回日々のミーティング以外でも会議の場を作ったりしています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4名	2名	支援の内容や様子等、外部からの情報を聞いたりしながら参考にしたりと取り組んでいます。	回答を求める事はありますが、その解答率はそこまで多くはないので外部との交流は増やしていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6名		社内研修を行ったりと、情報共有や研修の報告なども取り組んでいます	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6名		毎月プログラムを作成して児童や保護者様が可視化して確認出来る様に作成しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6名		計画を作成するにあたり保護者様の意見や職員による聞き取り等を行いながらしっかりと作成しています	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6名		職員による聞き取りや日々の様子をミーティングを行いながら取り組んでいます。 ・個別支援計画書も見やすくしています	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6名		・課題のねらいや専門的支援など、児童の状態に合わせて支援や環境設定の工夫はしています。	・高学年から低学年までいる中で過ごす中での課題は多くありそこは今後課題として早急に検討していきたいです。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4名	2名	日々の様子はしっかりと記録として残しながら保護者様への公表したりしています。	標準化したツールはありませんが、色々な視点から支援に活かせるようにしていきます

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6名		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の目標設定や支援内容、地域移行については今の児童の状況を常に関係機関と共有しています。 ・課題の見直しをする事で児童の何にねらいをして提供しているのかまで考えながら課題や項目なども考えています。 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6名		毎月担当職員を中心にミーティングを設けて作成をしています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6名		固定化しないように様々な職員の意見や季節感、外部イベント等を参考にして課題のねらいを考えながら工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6名		年齢差もある中で毎日工夫しながら取り組んでいます。 ・小グループから集団まで設定しています	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6名		毎日業務前にはミーティングを行いながら前日の様子、当日の流れ、課題など検討しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5名	1名	支援終了後は記録などの記載時に共有しています。	どうしても業務内で難しい場面も多々ある為、その際は翌日に必ず共有しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6名		記録以外でも共有して、当日の様子や前日の様子など児童の状況やその背景まで考えて行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6名		モニタリングを通して職員目線の聞き取りは行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6名		基本活動をメインとしながら、5領域に対してもプログラムを考えて取り組んでいます	外部との交流や地域参加に関してはまだまだ少ないので今後は多くの機会を作っていきたいです。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6名		児童には常に選択肢を与えながら思考や考える力を育てる関わりを意識しています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6名		基本は児発管が参加していますが、OJT研修で参加したりと指導員の方でも参加するようにしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6名		関係機関との共有はその都度行っています 協力医療機関も構築しています	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6名		スクリレの使用や下校時間変更は日々適切に対応しています。	学校によってはまだ共有が上手く出来ていない部分もありますのでそこは構築していきます
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4名	2名	対象児童がいませんが、必要な場面では情報共有が出来る体制は出来ています。	こども園や未就学との繋がりがありませんので新しく作っていきます
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2名	4名		該当児童がいない為、今後の為に今の段階から構築していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6名			発達センターとのつながりはありませんので機会を設けて繋がりを作っていきます
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5名	1名	他の放デイとの交流は作っています。	児童館やクラブなどの交流はありませんので機会を作ります

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4名	2名	過去には参加しています。	今後は地域社会への参加や積極的に参加するように進めていきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6名		学校の様子を併せて共有しながら児童の様子は細かく伝えています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3名	3名	課題の中では保護者参加も取り組んでいます。	家族に対しての支援プログラムの説明や研修までは出来ていませんので今後検討します
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6名		契約時や変更箇所があった場面ではその都度お伝えしています	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6名		児童たちから意見を求める課題を入れたい保護者様へも聞き取りしたり取り組んでいます。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6名		ご説明する際は必ず対面に対応するようにしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6名		保護者様参加を課題に入れながら様子を観察してもらい相談できる環境を提供しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催することにより、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4名	2名	イベントを実施したりと保護者参加の機会は提供しています。	児童、保護者がより密にやり取りが出来る環境はまだまだ難しい部分があるのでそこは今後早急に機会を作り有意義に取り組める様にします。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6名		苦情解決委員を作ったり、管理者中心として日々の保護者様からあった声を共有しています	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6名		毎日の様子をSNSへ発信したり、毎月ニュース発行を行い関係機関へ発信しています	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6名		個人情報や写真記載などに関してはしっかりと同意を得た児童のみ記載しています	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6名		児童が分かりやすく可視化した掲示物の作成や保護者様とは電話、メール等その都度配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6名		地域交流の機会を早く作り実施します
非常時等の対	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5名	1名	研修制度を作りながら取り組んでいます	研修した内容をより細かく保護者様へ共有したりして密にしています
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6名		定期的に訓練も行いながら研修も行っていきます。	今後はより具体的な研修を行います
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6名		服薬な度に関しても同意書を基に対応しています	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5名	1名	保護者様からの情報を参考に提供しています	今後もアレルギー性による緊急時が無いように危機管理をもって行います
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5名	1名	安全計画の周知をしながら運営し分からない所は聞きながら取り組んでいます	詳しい共有はまだ難しいので今後は進めていきます

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4名	2名		共有がまだ少ないので保護者会を通してさらに周知していきます
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5名	1名	細かいヒヤリハットはその都度共有しています	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6名		定期的な研修以外にも新入社員研修など広く行っています	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6名		児童の状況に合わせて同意書に記した状況以外には行わないよう意識して取り組んでいる	